

## 学習指導要領と大学入試

### — 高大接続の原点を探る —

東北大学高等教育フォーラムも今回で第14回を数えることになりました。そのうち、高大接続関係のテーマを取り上げてきた「新時代の大学教育を考える」シリーズは8回目となります。昨年は初めて200名を超える方にご参加をいただきました。皆様のご協力に感謝いたします。

前回は大学入試の現場の最前線の問題として、大学入試問題の「質」について取り上げ、議論を行いました。今回はよりマクロな観点から、高校と大学の教育接続について考えることとします。

平成25年度からの指導要領の全面改訂を前に、平成24年度から理科、数学で新指導要領が先行実施されることが決まっています。そして、新指導要領の下で理科、数学を学んだ高校生が大学入試を迎えるのが平成27年度というタイミングになります。高校では、不確定要素の多い平成27年度入試をにらみながらも、来年度から始まる新しいカリキュラムの準備に追われている状況でしょう。かたや、大学側が新学習指導要領に対して肌で感じている時間的な感覚は、高校現場とは若干の位相差があるのかもしれない。その差異によって高大の教育が分断されないためには、十分な情報交換が必要となるでしょう。

そこで、今回のフォーラムでは、基調講演者として**大学入試センター入学者選抜研究機構長**の**荒井克弘**先生をお招きしました。戦後日本の学習指導要領と大学入試制度の変遷をたどり、学習指導要領の変化がどのように大学入試に反映してきたのか、あるいは、学習指導要領と大学入試の高校教育に対する規定力がどのように変化し、それがどのような意味を持ってきたのか、そういったテーマでのご講演をいただきたいと考えています。さらに、高校からは2名の現状報告者をお招きし、学習指導要領の改訂と大学入試が高校教育に与える影響について語っていただきます。大学側の事例としては、学習指導要領の改訂に対する東北大学の検討課題について報告させていただく予定です。また、討議では**国立大学協会入試委員会専門委員**の**川嶋太津夫**先生に指定討論者として基調講演と現状報告の全体に対するコメントをお願いいたしております。

講演と現状報告、討議を通じて、学習指導要領の改訂に応じた大学入試のあり方、その結果としてのスムーズな高大接続の実現方策について考えます。高校と大学が共通理解の下での建設的な協力関係を築くために、本フォーラムが一つの役割を果たすことを期待しています。

日時 平成23年9月2日（金） 13:00～17:30（受付開始 12:30）

会場 東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟マルチメディアホール

#### フォーラム内容

##### I 開会

##### II 基調講演 学習指導要領 VS. 大学入試 —その葛藤の軌跡といま—

大学入試センター入学者選抜研究機構長

荒井 克弘（あらい かつひろ） 試験・研究副統括官

##### III 現状報告 新学習指導要領と大学入試

(1) 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

樫田 豪利（かしだ ひでとし） 教諭

(2) 東北大学高等教育開発推進センター

倉元 直樹（くらもと なおき） 准教授

(3) 宮城県仙台第二高等学校

渡邊 重夫（わたなべ しげお） 教諭

##### IV 討議

指定討論者 国立大学協会入試委員会専門委員

神戸大学大学教育推進機構

川嶋太津夫（かわしま たつお） 教授

##### V 閉会